



No. 95

発行人・渋沢茂

発行所・(社) 千葉県社会福祉士会事務局  
〒260-0026

千葉県千葉市中央区千葉港 7-1

塚本千葉第五ビル 3 F

TEL043-238-2866

FAX043-238-2867

<http://www.cswchiba.com/>

E-mail: [office@cschwchiba.com](mailto:office@cschwchiba.com)

※ 点と線はメール配信でも読めます!

## 特集 「我が事」「丸ごと」



僕の子どもはワガママだ。食べっぱなし。出しっぱなし。お気に入りの猫のタオルは「濡れたらかわいそう。」と一度も使ったことがない。ある日僕は風邪をひいた。薬を飲んで早く寝よう。夜中にびしょびしょの猫のタオルから、氷のように冷たい水が頬をつたい目が覚めた。小さな両手をまっ赤にして、「パパの病気は僕が治してあげるから安心してね。大丈夫だからね。」この子はいつも僕の事を考えていた。何で今まで気づかなかったんだろう。我が家まるごと。我が事まるごと。

### 《特集》

#### 2 「我が事」「丸ごと」

はじめに

支えられる側と支える側との間に 竹嶋 信洋

狭間のない支援 人とのつながり 南雲 いずみ

困っている人たちを助け合っていける社会 吉田 圭介

まとめ

#### 7 地域集会 長生・夷隅地区

佐倉・四街道・八街地区

#### 9 ワンアップ研修

#### 10 社会福祉士のわ

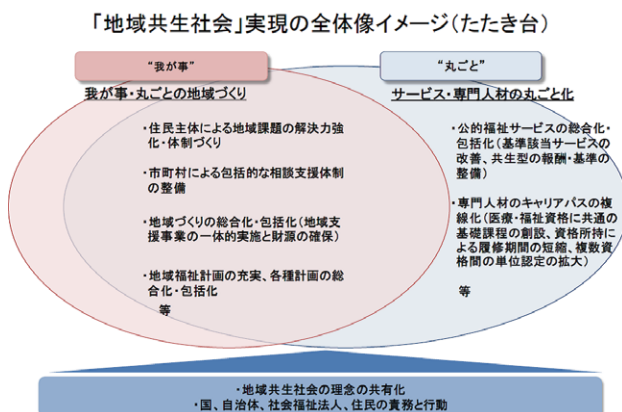
#### 11 災害の情報収集に関するホームページレイアウト変更のお知らせ ブレイクストーミング

#### 12 事務局便り

# 特集「我が事」「丸ごと」

はじめに

「我が事」「丸ごと」のフレーズを耳にする機会が増えた。



「我が事・丸ごと」の地域づくり「サービス・専門人材の丸ごと化」について検討が進められ、九月十

二日「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会」の最終とりまとめが報告された。

この報告の内容をどのような印象で受け止めたのだろうか？我々社会福祉士が今までコッコッやってきたことを、言い回しを変えただけではないかという仲間もいる。

報告書の最後にこう締められている。

「この取組は非常にクリエイティブなものであり、福祉ないしソーシャルワークが魅力的なものになる可能性を持っている。二〇二五年、さらには二〇四〇年を見据え、少子高齢・人口減少社会、一人ひとりの持つ地域生活課題がより複雑になる時代を生きる若者たちが、福祉やソーシャルワーク、地域づくりに関する仕事を『やっ

てみたい』と思えるようなものにしていかなければならないという思いを共有し、この検討会を閉じることとしたい。」

今まで汗を流してきたソーシャルワーカーの実践が、前述のソーシャルワークへの期待を生み出したものだと言えよう。

今回の特集では、三人の社会福祉士に、「私にとっての『我が事』『丸ごと』」を語っていただいた。

社会の変化への希望を肌で感じる場面、反面、描く理想までの道のりの難しさも垣間見える。

ソーシャルワークの力が試されている今、我々がなすべきことをしっかりと見直していきたい。

※図は、厚生労働省 地域包括ケアの深化・地域共生社会の実現(平成二八年七月十五日)を引用

支えられる側と支える側との間に

株式会社ベストサポート

竹嶋 信洋

「たけしま のぶひろ」



私にとっての「我が事、丸ごと」は、支えられる側と支える側との間に、グラデーション(グラディエント?)をかけることである。

知的障害者の方の支援に携わって十七年。三年前までは、地域に対して「もっともっとと障害のことを理解しろ、受け入れろ。受け入れないみんなが悪い」と敵をやっつけるかのような思いで過ごしていた。

二〇一一年八月に障害のある子供たちの療育と居場所づくりをするために、独立。拠点は、住宅街の一区画である。子どもたちが、

をやって欲しい。」との話。カツオも食べてしまったし、逃げられずに引き受ける羽目になった。

気持ち盛り上がった時に出る大きな声、散歩中のパニックなどに冷や汗をかく毎日。他の事業所では子どもたちが出す声に、地域住民から「出て行け」と言われ、窓を二重サッシにする工事をしたとか。そんなことにならないように、「啓発しなければ」「理解してもらわなくては」と肩に力が入る。しかし、この地域の住民は全く気にしていない。むしろ「大丈夫かい？」と泣く子供に声をかけてくれる。この地域、なんだか温かい。二〇一六年二月に、町会長から「うちに遊びにこい。話がある」とのお誘い。そこには、四国から取り寄せたというカツオのたたきや豪勢な食事とお酒があった。美味しくいただいた後に事件は起きた。

「実は、夏頃に脳梗塞をやってね。体もきついし：そこで君に町会長

会長を引き受けてわかったことは、高齢者（独居や孤食、孤独死など）や貧困、障害者など、町には多くの課題があることだ。こうした問題に直面して気がついた。それは、「誰もがニコニコ暮らせる街は、結果として障害のある人も住みやすい町なんだ」と。

障害のある子供たちは、ほとんどの時間を「支えられる側」で過ごす。しかし、誰もがニコニコできる町ではこれが逆になることがある。例えば、事業所の畑を使つて、サツマイモを育て、秋に収穫祭をやったことがある。食べきれないほどのサツマイモやレタスが

獲れた。これを自治会館に持っていくと、生活に困窮したお年寄りが取りに来るのだ。子どもが、支援される側からお年寄りを支援する側に変化していく瞬間だ。また、足の悪いおばあちゃんが庭の手入

れに困っていた。うちの事業所に通う子どもが庭をきれいにした。

シーンを変えてもう一事例紹介したい。自治会の活動に、独居のお年寄りで七五歳以上を対象にした「ふれあいランチ」というものがある。お年寄りの話し相手として、毎回四名から五名の職員を出している。こちらは支援しているつもりだった。ところが、自治会の人はそう思っていない。「あんたら若いもんは、どうせろくなものを食べていないのだろう。手作りで、体にいいものを食わしてやつて。私らに感謝しなさいよ」と。支援しているつもりが、支援されていた。驚きと新しい感覚がこみ上げてくる。

こうした支援される側とする側に境界がない、または曖昧さ、これがなんとなく心地よい。地域には、一方向的な方向に向かうベクトルはなく、全ての人と人の相互関係で成り立っている。みんな、この地域で生きている。障害者や高

齢者を孤立させてしまうと、人は繋がっていかない。誰もが、そこに、ただいるだけでいい。

これが私たちの目指す「我が事、丸ごと」である。



## 狭間のない支援

### 人とのつながり

中核地域生活支援センター

君津ふくしネット

障害者グループホーム等

支援ワーカー

南雲 いずみ

「なぐも いずみ」



一本の電話から始まりました。

「障害者のグループホームは、夫婦は暮らせませんか？赤ちゃんがい

ても大丈夫ですか？」

事業所としては、この夫婦の想

いを応援したい。しかし、前例のないことは、難しい。この家族の将来を案じて、関係者会議が開か

れました。相談支援専門員、グループホーム事業所、病院相談員、児

童相談所、役所からも、障害福祉課、児童家庭課、生活保護課、保健課から担当者が、また、生活困窮者自立支援センター等々二十余名が集まり議論しました。

まずは、障がいのある夫婦が子育てし、働いて生活をしていくには何が必要か話され、夫婦が出来る事と出来ない事が整理され、出来ない事をサポートするために利用できる制度や公共のサービスが出されました。そして「足りないものは、だれがどのように補いながら、この家族を支えるのか？どう寄り添うのか？」何回も話し合われしました。残念ながら、今は、夫婦が望むような形になっていません。しかし、私たちはこの家族にはまだまだ寄り添っていかうと思っています。

私は障害者グループホーム等支援ワーカーとして、仕事をしていきます。障害者グループホーム等の量的拡充と質的向上を図ることが主な仕事です。グループホームに

関わる相談は何でもお受けして、一緒に考えていくようにしています。必要に応じ関係機関と連携をとっています。また、関係機関からの問い合わせも多くあります。

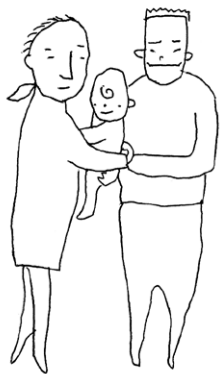
私は、ひとりでのいい方向に進めることが下手なので、多くの人の助けを借りて仕事をしています。

先ほどの話に戻りますが、この夫婦がお世話になっている事業所に相談をしたことから、多くの人達がこの家族のために力を使いました。いつも「私たちのために」と感謝をして、気を使い、頑張りすぎて、ちよつと夫婦で疲れた時もありましたが、今はお互いの体調を気遣いながら生活しています。

この夫婦の困り事を近所さんに話すと、「うちに来て爺さん、婆さんの話を聞いてくれよ。俺が赤ん坊はみるよ」「うちは子どもが巣立ったし、たまには私が赤ちゃん見ようか？」と言って下さった方もいました。『地域』は捨てた

んもんじゃないなと思いました。

実は、私の母は『バリバリの認知症』で、時は、十年前、二十年前、五十年前を混在させながら、それでも新潟の田舎町で一人で暮らししています。週三日デイサービス、週三日ヘルパーを利用し、ごみ出しの朝は隣家の奥さんが声をかけてくださり、雪の降った朝はその家のご主人が道路から玄関まで雪かきをして道を付けてくださり、庭はご近所さんが掃除をしてくださっています。台所の電気がつかない晩は、裏の家の方が「入院したがあ（したのか）：？」と心配をして私に電話が来ます。かつて、両親はご近所さんにそうしていたのだと思います。ケアマネさんも時々ご近所に顔を出してくださいます。私は職場の仲間が快く送り出してくれるので、月に三回位、実家に帰ります。母とのんびりします。住み慣れた家で暮らす母の『生きる』を支えてくれていて人達が大勢いて嬉しいのです。



感謝！です。

私の「わがごとまるごと」は…？  
 ともかく、生きていて人と繋がっていることでよいのかなと感じています。『お互いさま』『持ちつ持たれつ』『お隣さま』『仲間』という言葉で繋がる線が多ければ多いほどよいのかな？と感じながら、今日も生きていたいと思います。

## 困っている人たちを

### 助け合っていける社会

認定NPO法人

まごころネットワーク

吉田 圭介

「よしだ けいすけ」



や独居老人の問題が多く生じている地域があったり、子育て世代が増えたことで学校不足の問題、また、マンションが激増したことによる近所づきあいの希薄化や関係機関が介入しづらいため虐待の発見が遅れるなど、様々な問題が生じています。

ワークで、かつ、一本一本が太く、細かい網目にしていかないといけないと考えます。

私にとってのわがごとまるごとは、子供から高齢まで、障害や疾病の有無にかかわらず、可能な範囲でそれぞれが特性を生かし、様々な形で社会参加をしていく中で役割を持ち、困っている人々を助け合っていける社会です。しかし、これを実現していくには今以上に、国民の福祉や介護に対する知識と関心が伴わなければとても不可能だと思います。また、支援に関わる人のバーンアウトにも配慮しながら行っていくことが必要不可欠だとも思います。そして、高齢、障害、児童、貧困分野がそれぞれ連携でき、支援困難なケースには今よりも幅の広いネット

現在、私が担当しているケースで、昨年軽度の認知症を患った一人暮らしの女性が、新築建売住宅街に住む娘さん夫婦と一緒に住むことになりました。母親がいつになっても帰ってこないのを心配し家周辺を捜していたところ、一軒の家の中から怒鳴り声と聞いたことのあるような声が聞こえ、近づいてみると、母親が勝手に家の中に入ったことを家主からこっぴどく怒られていたそうです。それ以来、本人が外出することが減り、うつ傾向となり、家にこもりがちな生活になっていきました。

私は、介護支援専門員として主に流山市を中心に活動しています。二〇〇五年につくばエクスプレスが開通し、“母になるなら、流山市。”“都心から一番近い森のまち”をキャッチフレーズに流山市も首都圏にアピールしたこともあり、若い世代が増え、人口も増加しています。このことで市全体では高齢化率が低下していますが、新旧市内によってばらつきが大きく、高齢化率が深刻で、買い物不安

私はその日の出来事を聞いた時「もつと認知症への理解があったら…。」と思ってしまったのと同じように、事前に自治会長や民生委員、隣近所だけでなく、もう少し広い範囲まで認知症の特性を周知しておけば（プライバシーや個人情報

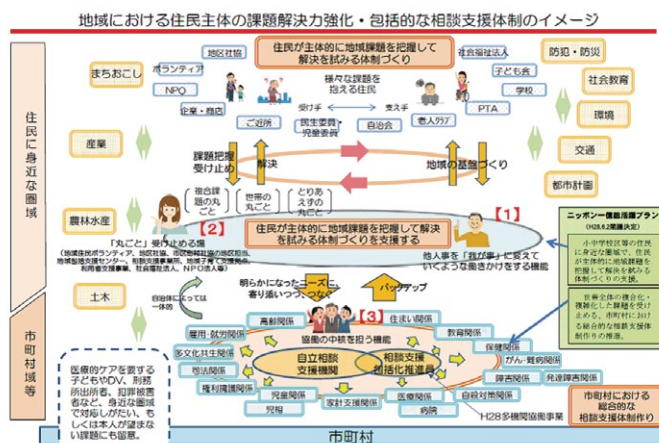
の保護の問題もありますが・・・と、防げなかったことで自責の念にかられました。

現在、行政やメディアも福祉や介護に関する情報を発信していますが、まだまだ理解が得られていない人もたくさんいると思います。

今後もし自身、我が事・丸ごとの実現に向けて、行政任せだけではなく、微力ですが介護事業者として、また、一社会福祉士として、今以上に様々な機関と連携しながら、地域に向いて、一人でも多くの人に理解を広められるように活動していきたいと考えています。

## まとめ

住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを支援するために、次の機能が求められている。



【1】他人事を「我が事」に変えていくような働きかけをする機能  
【2】「複合課題丸ごと」「世帯丸ごと」「とりあえず丸ごと」受け止める場  
【3】市町村における包括的な相談支援体制

包括的な相談支援体制の中でソーシャルワーカーが力を発揮することが求められる場面は多くなる。

竹島氏の実践報告から気づかされることは、一方的な方向に向かうベクトルはなく、全ての人と人の相互関係で成り立っているということだ。他人事を「我が事」に変えていくような働きかけをするとき、肩ひじをはって住民に対してその解決を求めても、よい関係性は生まれにくい。利用者に寄り添ってきたように、地域の住民と寄り添い、多様な相互関係を育むことで、互いの事を我が事として受け止められる。

南雲氏は、実践報告の中で、「ひとりでいい方向に進めることが下手なので多くの人の助けを借りて仕事をしている」と語っている。この姿勢が、「とりあえず丸ごと」受け止める場となるソーシャルワーカーの強みだろう。周りの力を引き出し、その力と利用者との結びつきを強固なものにしており、地域の支えあいの中で自立できる力を育てている。

吉田氏の実践報告からは、利用

者が暮らす場面は、知り合いのただでなく、より広く他人事を我が事に変えていく事の必要性を痛感しながらも、その働きかけは一人のソーシャルワーカーだけでは難しい現状がうかがえる。このジレンマに行政、地域を巻き込む好機が今だと思いたい。

他人事を「我が事」に変えるということとは、なかなか理想通りに進まないからこそ、ソーシャルワークに期待が寄せられている。

暮らしに支えが必要な方がいた時にその支えの一つ一つの点のような動きを結びつけていく事で、線から面となり社会を変えていく力としていきたい。

※図は、厚生労働省「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会（地域力強化検討会）」の最終とりまとめ概要（平成二九年九月十二日）を引用

# 地域集会

長生・夷隅地区

## 地域集会に参加して

茂原市地域包括支援センター

岩坂 理奈

普段は、地域包括支援センターの主任介護支援専門員として働いているが、地域包括支援センターは、明確に仕事内容が分かれているわけではない。しかし、介護支援専門員としての意識が強いため、地域集会のお知らせが来るたびに、社会福祉士として仕事をしたいのに参加していいのかなと迷いながらも参加している。

介護支援専門員や地域包括支援センターの職員としての研修が多く、社会福祉士としての研修にあまり出ていない状況である。だからこそ地域集会での勉強がとてもためになっている。また、普段知らなかったことや仕事に直結する内容など様々なことを学ぶことが

できるので、参加することをもっと楽しく感じている。

地域集会では、普段は会うことがない社会福祉士の方と会える機会だと思っている。地域では、いろいろな職場で社会福祉士が働いているんだと改めて知ることができ、それが、自分の仕事への励みにもなっている。また、普段、仕事で関係のある方でも地域集会で会うと普段とは印象が違って見える。あまり、深く話をする機会がなかった人と少し深い話ができるのも、地域集会に参加してよかった点である。

地域集会では、「認知症カフェ立ち上げの話」「栄養士さんのお話」「社会福祉士の役割と地域包括ケアのお話」に参加している。

「認知症カフェ立ち上げ」については私自身も関わっているのだから、参加している皆さんに認知症カフェのことを知ってもらえるといいなと思って参加した。認知症カフェは、認知症の方、介護している家族、地域住民、専門職と一緒に過ごせる場所として全国各地で立ち上がっている。今回、地元の専門職が皆で話し合い立ち上げることになったが、場所探しやボランティアの手配などいろいろな

困難があったので、発表する場があるのはとても励みになった。現在も活動を続けており、社会福祉士も活動に関わっている。

栄養士の方の話は、普段関わりがあるのにじっくり話を聞くことが少ないので、このように話を聞ける機会は大変にありがたいと思った。栄養相談の具体的な内容についても聞くことができたのでとてもよかった。仕事にもすぐに活かすことができる内容だった。

社会福祉士の役割については、教科書的なことは随分前に忘れてしまっていたので、改めて振り返る良い機会となった。社会福祉士としてどれだけ役割を果たしているのかも考えると知識の偏りもあり、まだまだ勉強することが必要であると思う。資格を持ち仕事をしていくことは、常に新しい知識や技術を身に着けて自己研鑽をしていくことが大切であると改めて感じた。

これからも地域集会に積極的に参加し、自分自身の知識や技術を向上させ地域に還元できればいいと思う。

# 地域集会

佐倉・四街道・八街地区

## 《ダイバーシティ・ソーシャルワーカー原ミナ汰さんをお招きして！》

平成二九年七月二三日(日)

佐倉市白井公民館に於いて

地域世話人 秦野隆治

「さて、次の集会どうしようか?」「ダイバーシティ(多様性)はどう?」「おお、グローバル定義に入ったよね」「この間、衝撃的なこと聞いたの。性的違和感を持つ人は十三人に一人いて、人知れず悩んだ末に自殺してしまう人も多いそうよ」「生きづらいよね。ちよつと普段の仕事からは離れるけど、チャレンジしてみようよ」という会話からテーマが決まり、候補者が決まり、ポスター(チラシ)もきれいに仕上がりました。

講師としてお招きしたのは、原ミナ汰先生。ご自身がXジェンダーとして不登校・ひきこもりも経験され、

二十代後半以降、レズビアン、ポトグループづくり、性被害のピアサポート・支援を開始。「共生ネット」を立ち上げ、「よりよいホットライン」で統括コーディネートを務め、全国五〇〇か所以上でマイノリティ相談・居場所・啓発事業に協力しています。著書翻訳書も多数です。

まずは「LGBTQの悩みは、生活の悩み、性の多様性の尊重と社会福祉士の関わり」と題してお話を伺いました。

LGBT は日本に約七、六％存在している、佐藤さん、鈴木さん、高橋さんなど（苗字）が多い。すぐ隣に居るのに見えづらいため生きづらい。人間関係での悩み、社会的排除、差別、家族との不和、希死念慮、自死企図、いじめ等々での電話相談が多い。やはりとても息苦しく、自殺リスクが高まる。特徴として、①困難が目に見えない↓ネグレクトされる。②性的規範と密接↓性差別される。③身近な人に頼れない↓孤立する。④とても告白（カミングアウト）しづらい。告白があつたら、あなたは良いキャッチャーになれるでしょうか？

そもそも学校で、職場で、地域で、「心理的安全性」があるのでしょ

か？ 悩みを知り、偏見の構造を知り、相談できる人になりました。とお話してした。

続いてのグループワークでは、四つのグループに分かれて事例を研究。「学校で・地域で・登場人物になりきりワーク」孤立しがちなLGBTをどう支えるか」とのお話を先生からいただき、率直な思いを各人が語りました。

児童青少年課の職員、市議会議員、学生・生徒など非会員も多かったのですが、とてもいい雰囲気でした。合えたと思います。私の個人的な感想では、「心理的安全性」にとてななくモノがありました（自分の会社にもないなあ）。そして多様性の尊重。これはやさしいようでとても難しい課題です。もちろん自分の中にも乗り越えなければならぬ高いハードルを感じます。そしてソーシャルワーカーの一人として、ミクロで相談援助に乗りつつ、メゾでマクロで構造を変えるアクションを最前線で起こさなければならぬと思いました。

さて皆さんに質問です。性は自由選択にまかせるべきでしょうか？（原ミナ汰）

答えは私、秦野や参加者に訊いて下さい。

次回は、RJ（修復的対話）に取り組めます。ご期待ください！（次は黒字になるかなあ）

平成29年度 第2回 地域集会のご案内

社会福祉士の喜び歌！  
異議・異心のある者ども！

今回のテーマはRJ（Restorative Justice）です。  
修復的な対話、正義、司法と訳されていますが、  
やられたらやり返す報復的なやり取りではなく、  
回復と和解を目指す取り組みです。  
日本では、スクールソーシャルワークの領域で  
先進的に取り組まれているようです。

日時：平成29年11月11日（土）  
13:30（13:00開場）～16:00  
場所：NPO法人 ほっとすぺーす・つき  
佐倉市稲荷台1-17-1 2F

参加費 1,000円  
（会員、非会員を問いません）  
事前申し込みが必要です！

白梅学園大学の牧野先生を  
お招きして、お話を伺い  
ながら、実際に全員で輪に  
なり、グループワークを行  
います。深い体験ができるこ  
とでしょう！

申込及び問い合わせ先  
NPO法人 ほっとすぺーす・つき 電話/FAX 043-235-8008 15:00～20:00  
hottospacetaki@tuba.ocn.ne.jp

佐倉・四街道・八街地区  
在住・在勤の社会福祉士の皆さま！

平成29年度 第1回  
地域集会のご案内

原ミナ汰さん  
をお招きして！

2017  
ダイバーシティ  
ソーシャルワーク

講演  
「LGBTQの悩みは、生活の悩み  
～性の多様性の尊重と社会福祉士の関わり」（45分）  
グループワーク（45分）  
自由交流、相談

参加費  
会員 1,000円、非会員 1,200円（講師料、資料代ほか）

日時：平成29年7月23日（日）  
13:30（13:00開場）～15:30頃  
場所：NPO法人 ほっとすぺーす・つき  
佐倉市稲荷台1-17-1 2F

【申込及び問い合わせ先】  
NPO法人 ほっとすぺーす・つき 電話/FAX 043-235-8008 15:00～20:00  
hottospacetaki@tuba.ocn.ne.jp

# 研修報告

## ワンアップ研修

堀江 亜希子（ほりえ あきこ）  
立川 大輔（たちかわ だいすけ）  
大橋 美和（おおはし みわ）

### 【開催経緯】

「基礎研修で出会ったみんなとの繋がりをこれからも残したいな」  
「これからもこうして学びの機会を持ち続けたいよね」

今から一年ほど前のある日、基礎研修Ⅲの休憩時間に交わされた受講生同士の会話がこの研修開催のきっかけでした。

基礎研修Ⅰ～Ⅲ（※注）の受講を通して、多様なバックグラウンドを持った社会福祉士と出会いました。働く領域も経験も年齢も勤務地もバラバラでしたが、同じ「社会福祉士」という資格を持つ者同士、共に社会福祉士としての専門性の向上を目指して学びを深め、社会福祉士同士の横の繋がりを構築することが出来た研修でした。しかし、私たちが基礎

研修を受講している時は、修了後の研修については、各々が自身で探し出すという状況で、修了後の進む方向性が不透明な状況でした。そこで、「この研修を通して得た『横の繋がり』を維持して、『学びの機会』を研修終了後も持ち続けられ、日々の実践の振り返りや自己研鑽が行える場が無いなら、作ればいい！」と思い、企画をしました。

### 【内容】

平成二九年度は、二回に渡って、事例検討・事例研究を行ないました。基礎研修で学んだ「実践事例研究」の手法や「アプローチ・理論」も併せて確認を行い、参加者が持ち寄った事例をもとに少人数のグループに分かれて検討会を行ないました。

普段、行なっている支援を検討しながら「専門職としての理論に基づいた支援となっているか？」「どのような視点でアプローチをしているか？」「ソーシャルワークの展開過程に基づいた支援となっているか？」等を共に検討しました。検討後、それぞれのグループ内で話し合った内容を会場全体でシェアし、学びの共有を行ないました。

二日目の最後にはエンパワメント体験を行ない、出席者皆で「明日からも頑張ろう！」と暖かい気持ちで閉会することができました。

### 【感想】

研修の企画・開催から携わるのは初めての試みでしたので、手探りの中での開催でしたが、研修委員会の先輩方の支えもあり、無事に開催することが出来ました。基礎研修で学んだ事例検討の手法、ソーシャルワーク理論やアプローチの再確認の機会となり、日頃の自身の実践を振り返るとてもよい機会となりました。また、事例検討を通して、他の社会福祉士のソーシャルワーク実践について知ることが出来、世界が広がったように感じました。

今年度は、事例検討を行ないましたが、ソーシャルワーク実践の深化と社会福祉士同士の繋がりを広めて、社会福祉士としてワンアップ出来るような内容を企画・検討していきたいと思っています。ご興味ある方やこんな内容で開催してほしい等のご意見がある方は、是非お声かけください。一緒にワンアップしましょう！

※注）基礎研修Ⅰ～Ⅲは、千葉県社会福祉士の生涯研修センターが日本社会福祉士会のプログラムに基づいて、開催されている研修です。



# 社会福祉士のわ

「今までの自分。そしてこれからの自分」

稲葉 明美「いなば あけみ」

## 福祉の世界に入ったきっかけ

私が福祉の世界に入ったのは、病院の外来に来ていたご高齢の方々との出会いがきっかけでした。自分の中に在宅介護の知識の必要性を感じ、ケアマネの資格取得を目指しました。

二、三年を予定していたケアマネの仕事は、気がつくと十四年。子供たちの反抗期、受験、そして夫の病気等々と重なり、必死に駆け抜けた歳月でした。

途中、縁あって地域包括に移ったことをきっかけに、社会福祉制度や権利擁護に触れることも増え、更に福祉の世界に浸りました。気がつけば、いつの間にか子ども

たちは就職し、私の髪には白いものがたくさんに。

## 人生の山も谷も愉しみたい

私はちょうど一年前に、昨今の社会問題にもなっているような職場環境を経験し、仕事を辞めました。心身ともに打ち碎かれ、自分の命すら持て余す時間を過ごしました。

そんなかつて経験したことのない私の大ピンチを救ってくれたのは、自分の家族、職場も立場も違う社会福祉士の諸先輩方、一緒に研修を受けてきた人たちでした。

「さりげなくそっとそばにいて、そして、さっと手を差し伸べられる、ほどよい距離感をもつことは大切だ」と、精神保健福祉科目の先生がおっしゃっていました。昨年私は身をもって体験をするこ

とになりました。たくさんの人に支えてもらいました。そして、少しずつ頭をもたげ、一歩前に動きだそうとする自分の気持ちの変化に気づいた時、嬉しくて涙が出ました。

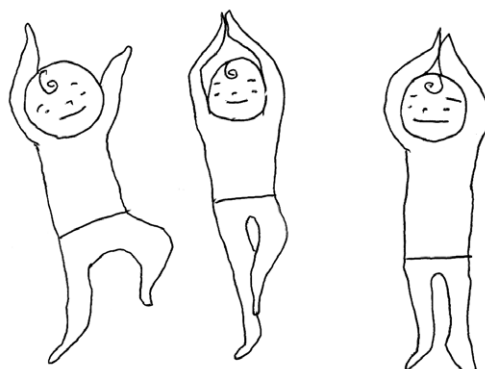
私は今、老健で看護師として働き始め、新たな環境や出会いの中で日々奮闘中です。全然違う仕事に復帰したように言われる方がいますが、そうでもありません。

施設ケアマネ、介護職、リハ職、栄養課、連携室の方々と一丸となり、個々人の在宅復帰を目指した支援や対人援助方法を模索する中に、共通するものがあります。

亡き父の教えですが、日々の生活や出会いには必ず意味があり、行いすべて自分に戻ってくるものだ。

多くの方々から学びや支えを頂きながら、今の私があることに改めて感謝しながら、これからの人生を愉しみたいと考えています。

こんな私ですが、これからもご指導の程、宜しくお願い致します！



# 災害の情報収集に関するホームページ レイアウト変更のお知らせ

ホームページで「被災地支援」の情報追加しました。  
被災地には、そこで暮らす人々の生活があります。

助の仕組みの御案内と、災害ボランティアを求めている被災地の情報にリンクができるようにしました。ご活用ください。

「私たち社会福祉士にできることは・・・」  
被災者自らが生活再建への意欲を持てるようなエンパワーメント？  
様々な人々との協働を生み出すコーディネート技術？  
生活と支援制度の活用を結びつける相談援助技術？  
ただ、暮らしの場で、地域の住民同士が助け合い、取り組んでいくことに寄り添うこと？

「そこで暮らす人々の必要としていることは・・・」が第一です。  
私たち千葉県社会福祉士会には、大規模災害時対応ガイドラインがあります。

千葉県社会福祉士会ホームページ「被災地支援」のページでは、「一般社団法人千葉県社会福祉士会大規模災害時対応ガイドライン」、補



## フレインストーミング

今回のフレインストーミングですが、執筆担当である私めが編集会議に向かうのが遅くなり、全くもってフレインをストーミングすることができませんでしたので、今回は小断をひとつ。

それは今日、駅付近駐車場に車を止め、用事が終わり車に戻ってきた時のこと。

私「(駐車番号は十八番ね...)」

番号を押すと五〇〇円の表示。

私「(ん？高くね...?)」

まあいいかとお金を入れる。

機械「バーが下がったことを確認し発進してください」

私「(車を見ると)下がってないやないかー」

皆さんもうお分かりですね！そう、番号間違えました！てへ！

という訳で、こんな私ですが今後とも皆様よろしくお願い致します。

フレインストーミングとは ※ウィキペディアより抜粋

アレックス・F・オズボーンによって考案された会議のひとつ。

集団思考・集団発想法・課題抽出ともいう。

集団でアイデアを出し合うことによって相互工作の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法である。

そう、私はこのコーナーの趣旨を一貫して間違っていたのである。

ちなみにオズボーンさんはオジー・オズボーンさんとは別人である。

完

天候不順の夏が終わり、食欲とスポーツと研修の秋です。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

そして、どんな新しい出会いがあったでしょうか。

早いもので、師走の足音も聞こえてまいりました。お忙しい日々をお過ごしのことと思います。

これからやってくる寒い季節、くれぐれもご自愛ください。

## 研 修 等 ・ 行 事 の お 知 ら せ

※研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載致します。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

【以下、今後の研修予定】

- ・権利擁護センターぱあとなあ千葉運営委員会- ぱあとなあ千葉サポート、テーマ別弁護士との事例検討他

はじめて！

### ＊＊ 新事務局員のご紹介 ＊＊

8月1日より事務局に入りました高木です。事務局での多岐にわたる仕事を一つ一つ正確に取り組んでいきたいと思ひます。ご迷惑をお掛けすると思ひますが、精一杯頑張つてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたしします。

## ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
宮本 秀樹	袖ヶ浦市	常磐大学	西村 一哉	松戸市	—
小暮 睦真	松戸市	常盤平地区在宅介護支援センター	大内 律子	鴨川市	—
丸田 峻之	千葉市	社会福祉法人 苗場福祉会 アルマ美浜	上野 広喜	松戸市	—
平戸 寿夫	白井市	NPO 法人 成年後見なし坊安心サポート	木内 洋子	鎌ヶ谷市	—
保田 あかね	大網白里市	ワークショップ鎌取	油嶋 実保	山武市	—
磯野 由和	松戸市	社会福祉法人 流山あけぼの会 あざみ苑	大石 実	白井市	—
伊藤 明美	長生郡	—	馬谷 益夫	四街道市	三菱地所ホーム株式会社
増田 葉子	印西市	印西市議会 印西地区保護司会	田村 則子	館山市	障害者就業・生活支援センター 中里
川口 諒	浦安市	—	久本 真司	佐倉市	—
櫻井 知恵	—	医療法人社団 昌健会おおあみ在宅診療所	瀧澤 茉佑子	草加市	—
山下 君子	松戸市	木下の介護 南柏	堀口 麻理子	木更津市	富津市富津地区地域包括支援センター
普天間 麻紀	松戸市	—	片岡 夏美	千葉市	医療法人社団 優仁会 鈴木神経科病院
野村 充津子	市川市	市川市高齢者サポートセンター 市川東部	武田 由美	南房総市	NPO 法人 たからばこ
松尾 加奈	—	淑徳大学アジア国際社会福祉研究所	岡田 高幸	市川市	印西市印西北部地域包括支援センター
森川 裕美	千葉市	—			

※正会員登録「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

### 平成 29 年 9 月末現在の会員数

正会員 1,461 名、 準会員 4 名、 賛助会員 2 名 合計 1,467 名